

[成果情報名]卸売市場評価に基づくシクラメン出荷画像評価モデル

[要約]シクラメンの画像をもとに特定市場の評価による出荷画像評価モデルを作成した。モデルは株11段階を縦方向、その各段階の花8レベルを横方向に評価したクロス画像で、理想型、贈答用、標準小売用、量販店用に類型化し、生産者による出荷事前評価などができる。

[キーワード] シクラメン、卸売市場、出荷、画像、評価

[担当]三重科技セ・農業研究部・経営植物工学グループ、園芸グループ

[連絡先] 0598-42-6356、k-oizumi@mate.pref.mie.jp

[区分]関東東海北陸・花き部会、経営部会

[分類] 技術・普及

---

[背景・ねらい]

鉢物花きは切り花に比べて評価が難しく、市場における品質評価基準や規格が確立されていない。しかし、シクラメンは経験を通じて特定の形態や生産者の栽培技術等が評価される傾向にある。このシクラメンの評価は、卸売市場の特性等を反映した専門家の主観に依存しているが、価格形成や市場でのランク付けの基礎になっているため、生産者や産地が出荷先卸売市場の品質評価を具体的に把握することが極めて重要となっている。

そこで、卸売市場における主観的外観評価を画像で捉えて体系的に整理し、卸売市場におけるシクラメン評価の標準化とともに、生産者による出荷事前評価や栽培における目標形態として利用できる評価モデルを作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 卸売市場に出荷された5号鉢シクラメンを対象に、様々な外観のシクラメンを撮影環境の等しい撮影セットの中で一定方向・距離からデジタルカメラで撮影し、この画像に対する卸売市場の評価から画像評価モデルを作成した。モデルは株11段階を縦方向、その各段階の花8レベルを横方向に配置した88の画像から成る(図1)。
2. 評価モデルは、上段に向かうほど株の外観形態が良く、各段では右から左に向かうほど花の評価が高くなる。
3. シクラメン画像を贈答用、標準小売用、量販店用に類型化するとともに、贈答用、標準小売用について当該市場が理想とする外観を示し、小売業者の評価や用途などを踏まえた卸売市場ニーズを組み込んだモデルになっている。
4. 表1は、贈答用、標準小売用、量販店用に類型化したシクラメンの外観を卸売市場において現地計測した平均値を示している。

[成果の活用面・留意点]

1. 5号鉢シクラメン(ミニ等を除く)における大阪の特定市場の出荷画像評価モデルであり、当該市場のニーズに基づく評価によって作成したものである。卸売市場の地域によるシクラメンニーズの差異が分析されていることから、市場別モデルとなっている。
2. 斜め上からの通常視野角では詳細な比較評価が困難なため、真横から画像を撮影している。現実のシクラメンとモデルとの評価比較時においても同方向から検討する必要がある。真横の外観が方向により大きく異なる場合は、評価モデルへの適用が困難である。
3. 生産者・卸売市場へのモデル配付はA3カラー写真印刷としている。
4. 色の評価は、花や葉の発色・艶のみを対象とした評価モデルである。
5. シクラメン生産者による出荷事前評価や栽培における目標形態として利用できる。
6. 花き卸売市場において、生産者や小売業者に提示する評価モデルとして活用できる。
7. 小売業者等において、消費者に提示する評価モデルとして活用できる。

[具体的データ]

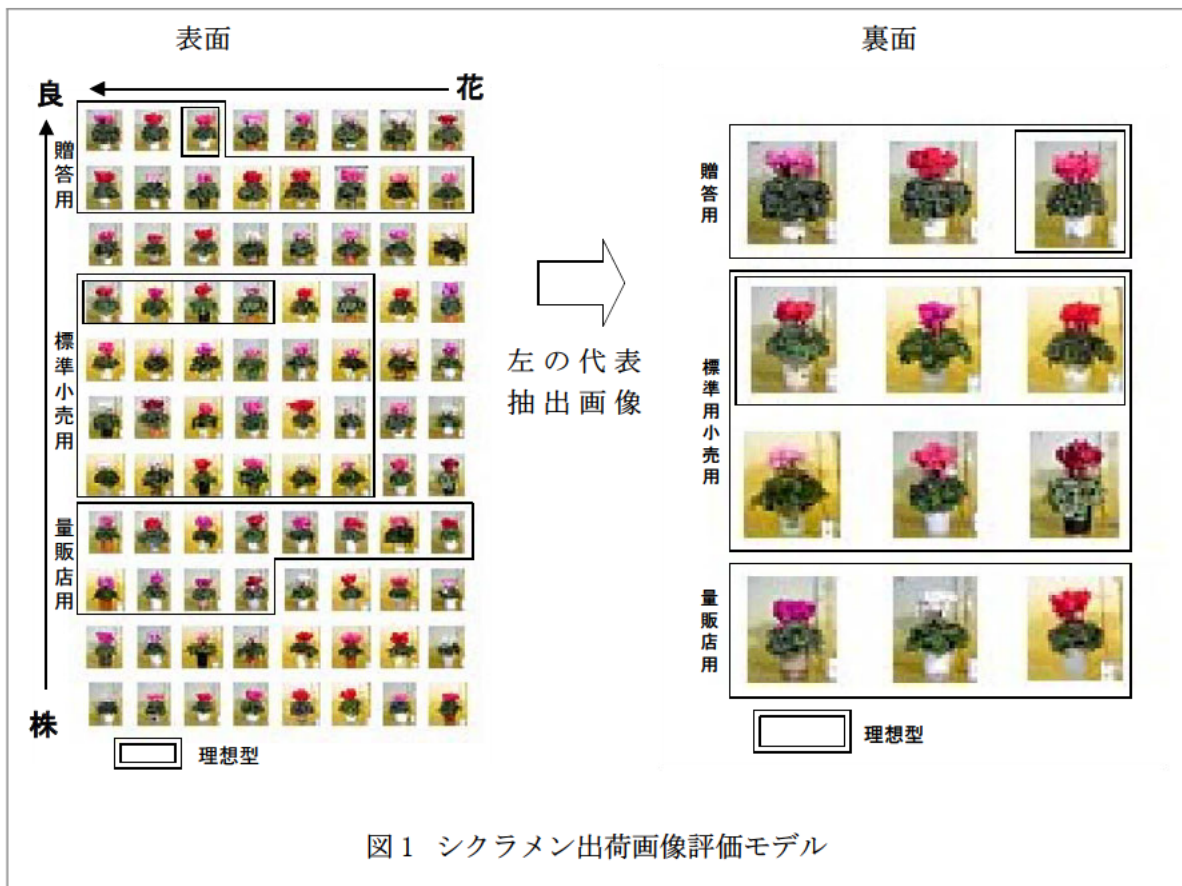


表1 出荷画像評価モデル類型別のシクラメン外観計測平均値

単位：本、cm、個

モデル類型	花数	蕾数	花直径	葉層直径	葉層厚さ	株全高	計測対象数
贈答用	26.1	10.8	19.2	28.8	12.3	36.4	11
(理想型)	31.0	9.0	19.0	26.0	11.0	36.0	1
標準小売用	24.8	10.0	17.6	26.3	11.5	35.4	24
(理想型)	22.8	8.0	17.0	25.8	11.5	36.0	4
量販店用	21.4	8.4	17.3	24.3	11.5	35.3	12

[その他]

研究課題名：計量的アプローチによるシクラメンの品質評価

予算区分：県単

研究期間：2002～2003年度

研究担当者：大泉賢吾、糝谷斉、鎌田正行、西田悦造、千田泰義、内山達也